

筑波大学学長殿

一般財団法人 関育英奨学会
理事長 高橋 和秋

奨学生の推薦について (依頼)

謹啓 新年度を迎え益々ご繁忙のこととご拝察申し上げます。

本財団は昭和56年度より奨学金の貸与事業を開始し、大学及び高等専門学校に在学する2年次の学生より奨学金の貸与を行っております。

就きましては本年度も幣育英奨学会奨学生募集要項に基づき奨学生の採用をいたしますので、幣会奨学金貸与規定をお含みのうえ、優秀な志望者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 対象者 第2学年在学学生 (医学部・歯学部を除く)
2. 貸与月額 30,000円
3. 貸与期間 平成30年4月より正規最短修業期間
4. 奨学金 貸与金については返還の義務があります。
(貸与が終了した月の翌月から12ヶ月を経た後、20年以内に返還する。)
5. 推薦人員 2学年在学学生より1名
6. 推薦締切日 平成30年6月8日
7. 採用人員 大学奨学生 20名
8. 採用決定 当財団の選考委員会
9. 採用通知 学長を経て本人に通知いたします。
10. 提出書類 (1) 奨学生願書
(2) 奨学生推薦調書
(3) 1年終了時成績証明書
(4) 在学証明書
(5) 作文(800字以内) 課題「将来の夢」
市販の400字詰め原稿用紙を使用のこと

添付書類

- | | | |
|------------|----|----|
| 1. 募集要項 | 大学 | 1部 |
| 2. 奨学生願書 | 〃 | 〃 |
| 3. 奨学生推薦調書 | 〃 | 〃 |

猶、願書等の取り扱いにつきましては、個人情報保護法の観点から奨学金貸与業務の為にのみ利用します。



設立にあたって

一般財団法人 関育英奨学会は 故前理事長 関 湊 の発意によるものである。

幼年時代から困窮の中を生き抜いた七十余年の生涯を顧みて、努力第一主義を信念として生きて来たのであるが、よく考えると、吾人の今日あるのは、全く国家社会の恩恵によるものであり、世間の多くのよき人々の暖かい援助があったお蔭であることを痛感し、感謝せずにはおられなかった。これが報恩の道は如何にすべきかを考え、日夜、夫婦相寄り協議した。それには前述ある有為の人物の育成、即ち育英事業のお手伝いをする事が、社会の大恩に報ゆる最もよき方法と考えたので、育英奨学会の設立を念願して、二人の私財を合せこれに投じた。かくてこの念願は叶えられ、昭和56年1月8日文部大臣からその設立を許可されたものである。

申すまでもなく、この事業の眼目は、資質優秀な青年学徒に対し、学費を貸与して、修学援助を行い、将来社会に貢献し得る有為の人材の育成をはかり、もって社会の発展と福祉に寄与しようとするところにある。奨学生を志望される方は、よく、この感謝と報恩の心を理解して、応募していただきたい。

奨学生募集要項

1. 奨学生の出願資格

本会が推薦校として指定した高等専門学校及び大学の第二次に在学し、人物・学業とも優秀かつ健康でありながら、学資の支弁が困難と認められる者で、在学する学校の推薦した者。

2. 出願手続

奨学金の貸与を希望する者は次の書類を揃えて在学する学校長を経て、本会に出願して下さい。

- (1) 奨学生願書 (本会所定の用紙)
- (2) 在学学校長の推薦調書 (本会所定の用紙)
- (3) 成績証明書
- (4) 在学証明書
- (5) 作文 (800字以内) (市販の400字詰原稿用紙) 題「将来の夢」

3. 奨学金の貸与金額及び貸与期間

- (1) 奨学金の貸与額 (貸与ですから返還の義務があります)
高等専門学校奨学生 月額2万円
大学奨学生 月額3万円
- (2) 貸与期間
奨学生となつてから、在学する学校の正規の最短修業期間。

4. 貸与の方法

原則として毎月当月分を本人の申出により銀行に振込送金します。ただし、特別の場合は2カ月以上をあわせて送金することがあります。

5. 奨学生の採用

奨学生の採用は、本会の奨学生選考委員会の選考を経て理事長がこれを決定し在学学校長を経て本人に通知します。
採用になったときは、学校から採用通知書と誓約書を受取り、所定事項を記入押印して必ず期日までに学校に提出して下さい。
理由なく期日までに提出を怠った者は採用を取消します。

6. 奨学金の休止、停止、廃止

- (1) 奨学生が休学し、又は長期にわたり欠席するときは奨学金の交付を休止します。

(2) 奨学生の学業又は性行などの状況により、指導上必要があると認めるときは交付を停止します。

(3) 奨学生が次の各号の一つに該当すると認められるときは、在学学校長の意見を徴して奨学金の交付を廃止します。

- ① 傷病のため成業の見込みがなくなったとき
- ② 学業成績又は性行が不良となったとき
- ③ 奨学金を必要としなくなったとき
- ④ 奨学生として適当でない事実があったとき
- ⑤ 在学校で処分を受け、学籍を失ったとき

7. 奨学生の復活

規定により奨学金の交付を休止又は停止された者が、その事由が止み、在学学校長を経て願出たときは、奨学金の交付を復活することがあります。

8. 奨学生の義務

奨学生として採用されたときは次の事項を守るとを誓約するものとします。本会の定める奨学金貸与規程その他の規定を守り、本会及び学校の指示に従い必要な手続きは怠りなく行うこと。なお、ひたすら学業に励み、健康に留意し、奨学生にふさわしい行動をとること。

また、奨学生のために行う本会及び校内の各種行事等には積極的に参加し、奨学生間の意識を高め、相互の親睦に努めること。

9. 奨学金の返還

奨学金は学費として貸与するもので、奨学金はこれを卒業後必ず返還しなければなりません。この返還金はただちにその年の奨学金となり後輩に貸与されます。

奨学金の返還は、貸与が終了した月の翌月から12カ月を経た後、20年以内に年賦、半年賦または月賦による等額割賦の方法によります。奨学金は無利息です。返還の手続き等は貸与期間終了のとき、規定により必要な書類を調製します。

10. 願書記入上の注意

奨学生願書は選考上、大切な資料であるから、書類提出時の状態をありのままわかるように記入すること。記載内容が故意に事実と相違して記入してあるときは、採用後でも取消しますから、正確に記入すること。

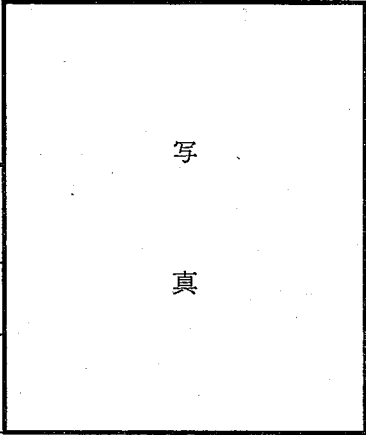
年齢は4月1日現在で満年齢を記入すること。

奨学生募集要項

一般財団法人 関育英奨学会

事務所 東京都足立区伊興4-1-29
〒121-0823 電話 03-5647-8787

一般財団法人 関育英奨学会奨学生願書



| | | | | | | |
|--|------------------------|---------|--------|----|--------|---|
| ふりがな 氏名 | | | | 写真 | | |
| 生年月日 | | 性別 | 男・女 | | | |
| 電話 | | 〒 | | | | |
| 現住所 | | | | | | |
| 在学学校 | 立 | | 大学 | 学部 | 学科 | |
| | 立 | | 高等専門学校 | | 学科 | |
| 貸与希望期間 | 平成 | 年 | 月から平成 | 年 | 月まで | |
| | | | 入学年月 | 平成 | 年 | |
| 奨学金の貸与希望するに至った家庭事情等特に考慮を望む事項を具体的に記入する。 | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| その他の学歴・職歴 | | | | | | |
| 本当の 入りの 学 か 費 月 | 収 | | 入 | | | |
| | 家庭から | 円 | 他の奨学金 | 円 | 食費 | 円 |
| | 定職 | 円 | その他から | 円 | 住居費 | 円 |
| | アルバイト | 円 | | | 交通費 | 円 |
| | | | | | 書籍・学用品 | 円 |
| | | | 計 | 円 | | 計 |
| 家族住居区別 | 持ち家 ・ 借家 ・ 社宅 ・ その他 | | | | | |
| 父死亡等の場合 | 死亡（病気・事故） ・ 生別 ・ 無職 | | | | | |
| 臨時的な収入 | 退職金 ・ 保険金 ・ 資産譲渡 ・ その他 | | | | | |
| 本会以外の奨学関係事項 | 奨学会名 | 給付・貸与期間 | | | 月額 | |
| | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|----|----|----|----|----------|----|
| 家族の 状態 | 区分 | 氏名 | 続柄 | 年齢 | 勤務先又は学校名 | 年収 |
| | 1 | | | | | |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| | 4 | | | | | |
| | 5 | | | | | |
| | 6 | | | | | |
| | 7 | | | | | |
| 8 | | | | | | |

家族住所
(電話・〒番号)

| | | | | | |
|-----------------|----|------|------------|-----------|----|
| 家族 全員の 収入 | 区分 | 給与所得 | 商、工、林、漁業所得 | その他の所得 | |
| | | 千円 | 千円 | 原稿料 | 千円 |
| | | 千円 | 千円 | 利子配当 | 千円 |
| | | 千円 | 千円 | 家賃 | 千円 |
| | | 千円 | 千円 | 年金 | 千円 |
| | | 千円 | 千円 | その他 | 千円 |
| 総年収額 | | 千円 | | 1ヶ月平均額 千円 | |

資産
 預貯金 千円 : 有価証券 千円 : 山林
 農地 a : 宅地 m² : 家屋 戸

| | | | |
|-------------|----|--------|------|
| 家族の障害 関係 | 種別 | 本人との続柄 | 疾病期間 |
| | | | |

| | | |
|------|----|----|
| 得意学科 | 性別 | 長所 |
| 研究科目 | | 短所 |

| | |
|----|----------------|
| 趣味 | クラブなどで 委員経験 |
| 運動 | |

以上のとおり記載事項に相違ありません。貴会の奨学生として採用していただきたく
 お願いします。

平成 年 月 日
 一般財団法人 関育英奨学会
 理事長 高橋 和秋殿

本人氏名
 連帯保証人氏名
 生年月日
 現住所

| | |
|---|--|
| 印 | |
| 印 | |

奨学生推薦調書(大学用)

大学 学部 学科 課程第 学年

氏名

学生証番号

推薦所見

推薦所見はなるべく具体的かつ詳細に記入していただきたい。

人物について

学業について

家計について

上記の者は人物・学業ともに、優秀、身体強健であって、かつ学費の支弁が著しく困難でありますので、貴会の奨学生として適當の者と認め推薦いたします。

平成 年 月 日

一般財団法人 関育英奨学会

理事長 高橋 和秋 殿

大学長



家 庭 調 査 書

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|--------------|---------------|--------------|---------------------------|------------|-----------------------|-------------|-----------------------|----|--|
| 申 請 者 | 所属 | 学群 _____ 学類 _____ 年次 _____ | | | | | | | | | | |
| | 学籍番号 | | | | | | 性別 | 男・女 | 現住所 | 〒 _____ TEL (_____) | | |
| | フリガナ | | | | | | | | | | | |
| | 氏名 | | | | | | 家族住所 | 〒 _____ TEL (_____) | | | | |
| 家 族 及 び 所 得 | 就 学 者 を 除 く 家 族 | 続柄 | 氏名 | 年齢 | 職業 | 在職期間 | 勤務先名称 | 給与所得の収入金額(税込) | 給与所得以外の所得金額 | | | |
| | | 父 | | | | 年 | | 万円 | 万円 | | | |
| | | 母 | | | | | 年 | | 万円 | 万円 | | |
| | | 父または母 死亡・離別の場合 | | 時期 (年 月) | 理由 (_____) | | | | | | | |
| | | 主たる家計支持者無職等の場合 | | 時期 (年 月) | 理由 (_____) | | | | | | | |
| | | | | | | 年 | | 万円 | 万円 | | | |
| | | | | | | 年 | | 万円 | 万円 | | | |
| | | | | | | 年 | | 万円 | 万円 | | | |
| | | | | | | 年 | | 万円 | 万円 | | | |
| | 別 居 者 に ○ 印 | 続柄 | 氏名 | 年齢 | 学校名 | 設置者別 | 学校種別 | 通学別 | 控除額 | | | |
| 本人 | | | | 筑波大学 | 国立 | | ※自宅 自宅外 | 万円 | | | | |
| | | | | | ※国公立 私立 | ※小・中・高・高専・大学 専修(高等・専門) | ※自宅 自宅外 | 万円 | | | | |
| | | | | | ※国公立 私立 | ※小・中・高・高専・大学 専修(高等・専門) | ※自宅 自宅外 | 万円 | | | | |
| | | | | | ※国公立 私立 | ※小・中・高・高専・大学 専修(高等・専門) | ※自宅 自宅外 | 万円 | | | | |
| 家 庭 の 特 殊 事 情 | 特別控除項目 | | 控除有無 | | | | | | | | | |
| | 障害者がいる世帯 | | ※有・無 | 続柄 () | 氏名 () | 手帳番号 () | 万円 | | | | | |
| | その他 | | | | | | | | | | | |
| 本 人 の 状 況 | 家庭からの給付 | 月額 (千円) | | | | | 認 定 | | | | | |
| | アルバイト | 月額 (千円) | 内容 (_____) | | | | 総収入金額 | ① | 万円 | | | |
| | 奨学金 | 受給中 | 月額 (千円) | 団体名 (_____) | | | | 必要経費 | ② | 万円 | | |
| | | 申請中 | 月額 (千円) | 団体名 (_____) | | | | 特別控除額 | ③ | 万円 | | |
| | その他の収入 | 月額 (千円) | 内容 (_____) | | | | 総所得金額 | ④=①-②-③ | 万円 | | | |
| 学 業 成 績 | 評 価 | 高等学校 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 平均値 | 収入基準額 | 世帯人数 | 人 | |
| | | 大学(院) | A | - | B | C | - | | | ⑤ | 万円 | |
| | 修得単位数または科目数 | | | | | | | 家計充足率 | ⑥=④÷⑤×100 | | | |

- (注) 1. 太線の枠内を記入し、※印は○で囲むこと。
2. 「給与所得の収入金額」欄は、申請の前年1年間の収入金額を記入し、所得証明書、源泉徴収票(写)を添付すること。
(父と母が給与所得者の場合は父と母両方添付すること。年金受給者の場合は年金振込通知書(写)。失業者は雇用保険受給資格者証(写)。
3. 「給与所得以外の所得金額」欄は、申請の前年1年間の収入金額から必要経費を控除した金額を記入し、確定申告書(写)等を添付すること。
(父と母が確定申告をしている場合は父と母両方添付すること。)
4. 「家庭の特殊事情」欄について、障害者のいる世帯については障害者手帳(写)、その他については証明するものを添付すること。
5. 「学業成績」欄については、1年次生(編入学生を含む。)にあっては出身学校の成績を記入(科目数で平均値を算出)し、成績証明書を添付すること。2年次以上の者にあっては、前年度までの成績(修得単位数で平均値を算出)を記入し、成績証明書を添付すること。